

放射線画像診断レポート 標準化 (HL7 CDA R2) 出力

JIRA画像診断レポート委員会では、2015年に「放射線画像診断レポート交換手順ガイドライン」を策定しました。

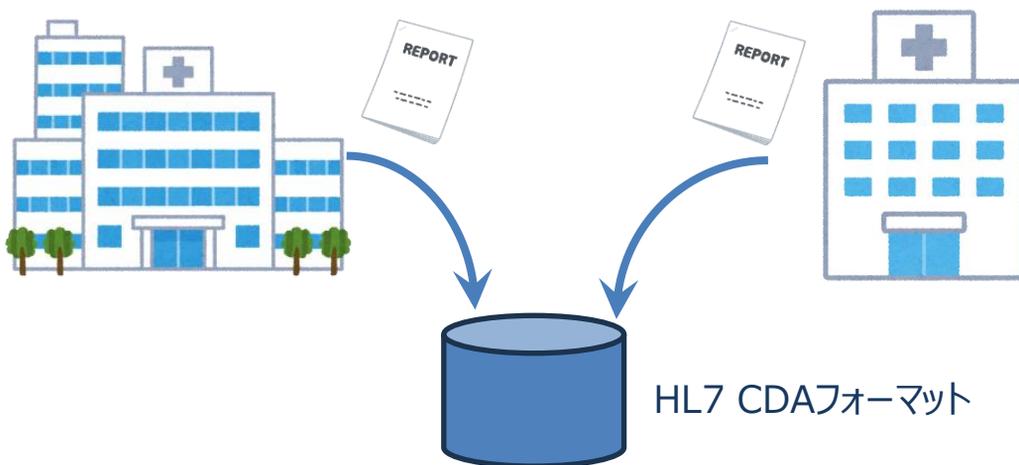
このガイドラインは当初ベンダー間でのデータ移行用に進められたものですが、HL7 CDA R2に準拠しているため、今後様々な場面での活用が考えられます。

■ 研究目的のデータの蓄積 (特に多施設データの蓄積)

AI画像診断が進む中、レポートのデータと画像を蓄積して学習させたいというニーズが高まっています。

今まではレポート保存についてはCSV形式やXML形式で独自の項目で保存しているケースが多かったのですが、多施設のデータの場合は整合性が取りにくくなります。

HL7 CDA R2に準拠した構造化記述を用いる事で、多施設のデータでも互換性を保つことが出来ます。



■ 多施設間でのレポートデータの共有

医療情報の共有化・標準化の一つにSS-MIXがあげられます。

現状SS-MIXでの施設間データ共有は放射線レポートの場合、多くはPDFなどで共有化されており、参照する程度しか出来ません。

SS-MIXのストレージにCDA形式でのレポートデータを保管することで、多施設間の放射線レポートの共有化が可能になります。

なお、CDA形式はFHIRとの併用が可能です。

■CDAはハードルが高いと思ったら・・・

画像診断レポート委員会では、CDAの普及のため各種ツールも提供しています。

1) CSV→CDA変換ツール

レポートシステムなどからCSV（カンマ区切り）形式で出力されたファイルをCDA形式のファイルに変換します。（添付画像の出力も可能）



2) CDA適合チェックツール

CDA共通フォーマットにあっているかどうかを簡単にチェックすることができる、「CDA適合チェックツール」を用意しています。
このツールを使用して、出力したCDAファイルを読み込ませチェックさせると、ファイルの内容や確認結果および問題の個所の特定などが容易に行えます。



大項目	項目名	項目値
CDA規格情報	名前空間	
	CDA規格ファイル	
	スキーマURI	
画像診断レポート情報	文書発効日	
	可及レベル	
	文書改題番号	
	患者ID	
	電話番号	
患者役割情報	姓	
	性別	
	生年月日	
	職種	
	患者所属病院名	
	患者所属病院電話番号	
	患者所属病院住所	
	作成日	
	作成機関番号	
	作成機関名称	

行先	場所	説明
12	/clinicalDocument/component/structuredBody	contextConductorId属性がない

「CDA適合チェックツール」画面例

■入手方法

ご紹介しました「画像診断レポート交換手順ガイドライン」および「各種ツール」はJIRAのホームページの以下のリンクから取得可能です。

JIRAトップページ(<http://www.jira-net.or.jp>)
⇒「刊行物」⇒「指針・標準・基準等 ▶ 診断レポート」

